

2024年10月25日

会社名 株式会社ジェーソン

代表者 代表取締役社長兼会長 太田 万三彦
(コード番号：3080 東証スタンダード市場)

問い合わせ先 専務取締役企画管理部門統括 山田 仁夫
電話番号：04-7193-0911 (代表)

2025年2月期第2四半期 決算に関する質疑応答集

この質疑応答集は、2024年10月15日に発表いたしました2025年2月期第2四半期 決算について、当社で想定していました質問および発表以降に株主、投資家などの方々からいただいた主なご質問・お問い合わせ等の内容とその回答についてまとめたものです。本開示は市場参加者のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものであり、ご理解いただきやすいよう、一部内容・表現の加筆・修正を行っております。

Q1 | 上期業績が前年同期比で減収・減益となりましたが、その主な要因を教えてください。

A | 飲料が想定以上に好調な販売状況であった一方、社内物流における飲料比率が急激に高まったことで、その他商品の配送遅延による店舗における欠品といった機会損失が発生し、結果として売上計画を下回ることになりました。

利益面においては、ローコスト経営による各種コストの抑制効果もありましたが、仕入価格が上昇する中でのロープライスに特化した販売による影響に加えて、物流適正化に向けた車両関係費、飲料販売に伴う飲料倉庫の増設費などの投資が先行し、前年同期比で減益となりました。

Q2 | 売上高、収益とも上期計画に届かない状況の中、通期計画達成に向けてどのような施策を進めていく予定でしょうか。

A | 上期の課題を踏まえ、物流体制の一層の効率化に取り組んでまいります。また、ローコスト経営の更なる高度化とJV、PB商品の強化を図ることで、下期以降は売上・収益ともに回復軌道となると見込んでおります。なお、「尚仁沢の天然水」の保管倉庫は現在建築中であり、2025年2月頃には竣工予定となっております。

Q3 | 上期に投資額を増やしているようですが、投資の内容について教えてください。

A | 今期は、物流適正化を企図した投資を中心に、約2.1億円の投資を行いました。内容としては、飲料需要の高まりに対応したトラックの増車、飲料倉庫の増設、子会社における飲料保管倉庫の新築などを行っております。また、通常の新店に伴う投資のほか、子会社の設備の一部更改も実施いたしました。

Q4 | PB商品として新たに炭酸水が追加されましたが、今後の計画、業績に与える影響などを教えてください。

A | 2024年5月末より、新たなPB商品として「はじける強炭酸水（天然水の炭酸水）」の発売を開始しました。発売開始から約3カ月で累計195万本の売上を達成し、想定以上の好調な売れ行きとなっております。下期においても、引き続き安定した需要に応えつつ、新たなPB商品の市場投入も検討しております。通常の定番商品での収益確保が厳しい状況の中、全体収益の底上げに寄与するものと考えております。

Q5 | 9月までに3店舗を出店されましたが、今後のスクラップ&ビルドの状況について教えてください。

A | 新店舗として5月に東村山青葉町店、7月に常陸太田宮本町店、9月に那須烏山店をオープンいたしました。各店舗ともオープン以降計画を上回る売上推移であり、概ね好調な滑り出しとなっております。下期についても、引き続きスクラップ&ビルド戦略に注力してまいります。

Q6 | 物価高騰を受け仕入コストが上昇する中、仕入価格の状況や価格転嫁の状況を教えてください。

A | 各種物価の高騰に伴い、仕入価格の値上り要請が継続している状況ですが、当社といたしましては、引き続きロープライス戦略にこだわった運営を変わらず進めていくことを基本に、販売数量や、顧客の反応を見つつ、価格転嫁を行ってまいりたいと考えております。

Q7 | 地代家賃が前年同期比で増加していますが、新店出店の影響であるのか、既存店に関わる部分であるのか教えてください。

A | 新店舗の出店に伴う地代家賃の増加に加えて、高まる飲料需要に対応するための飲料倉庫の増設が、全体としての地代家賃の増加に影響しています。